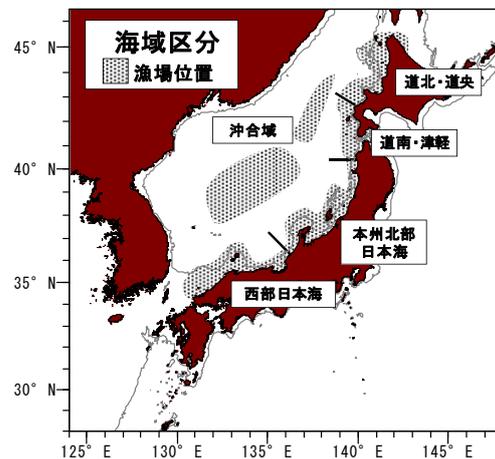


## 平成27年度 第2回 日本海スルメイカ長期漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産総合研究センター  
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 —

### 今後の見通し(平成27年8月~12月)のポイント

- ・今期の来遊量は前年及び近年平均を下回る。
- ・道南・津軽では、漁期後半に12月の漁獲量が多かった前年を下回るものの、近年平均並みに回復する。



\* 近年は最近5年間(平成22年~平成26年)

### 問い合わせ先

国立研究開発法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所

担当：檜山、江連

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0850

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/>

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>

## 平成27年度 第2回 日本海スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2015年8月～12月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海（道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域）

対象漁業：主にいか釣り・小型いか釣り漁業

対象魚群：秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

### 1. 道北・道央（小型いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：前年及び近年平均を下回る。

(2) 漁期・漁場：道北で低調。

### 2. 道南・津軽（小型いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：前年及び近年平均を下回る。

(2) 漁期・漁場：漁期後半に12月の漁獲量が多かった前年を下回るものの、近年平均並みに回復する。

### 3. 本州北部日本海（小型いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：前年及び近年平均を下回る。

(2) 漁期・漁場：今年も近年同様に漁場が形成されにくい。

### 4. 西部日本海（小型いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：前年及び近年平均を下回る。

(2) 漁期・漁場：今年も近年同様に漁場が形成されにくい。

### 5. 沖合域（いか釣り）

(1) 来遊量・漁況：前年及び近年平均を下回る。

(2) 漁期・漁場：8月～9月は道北沖、11月以降は大和堆周辺海域に漁場が形成。

\* 道北・道央（宗谷～後志）、道南・津軽（渡島、檜山、青森県）、本州北部日本海（秋田県～石川県）、西部日本海（福井県～長崎県）、沖合域（日本海中央部）。

\* 近年平均は最近5年間（2010年～2014年）の平均、前年は2014年を示す。

## I 予報の説明

2015年6月までの日本海沿岸各地の漁況の経過、6月下旬～7月上旬に実施した日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果、冬季発生系群を主体とした太平洋側への来遊状況（平成27年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報）、及び漁期前半（9月まで）の海況予報（平成27年度 第2回 日本海海況予報）を情報として今期の各海域における漁況を以下の通りに予想した。

### 1. 道北・道央（小型いか釣り）

この海域では近年、7月～8月と11月に漁獲量のピークがある。前半は秋季発生系群が主対象であり、後半は道東・オホーツク海から宗谷海峡を経由して来遊する冬季発生系群が主な漁獲対象となる。

#### 【情報と予報の説明】

日本海スルメイカ漁場一斉調査結果では、今年の当海域の分布量は前年及び近年平均よりも少なく、今年6月の当海域の漁獲量も前年を下回っていることから、今期前半の漁況は前年及び近年平均を下回ると予想される。また、今期後半に太平洋から当海域に来遊する冬季発生系群の来遊量も道東海域では前年を下回ると予想されていることから、今期後半も前年及び近年平均を下回ると予想される。

### 2. 道南・津軽（小型いか釣り）

この海域は近年、7月に漁期のピークがある。さらに、太平洋側から津軽海峡を経由して来遊する冬季発生系群を対象に11月～12月にもう一つ漁期のピークが出来る場合がある。近年、6月～8月の漁獲量は減少傾向にある。

#### 【情報と予報の説明】

日本海スルメイカ漁場一斉調査結果では、今年の当海域の分布量は前年及び近年平均よりも少なく、今年6月の当海域の漁獲量も前年及び近年平均を下回った。さらに、今期前半の表面水温及び水深50m水温が「やや高め」と予測されていることから、今期前半の漁況は前年及び近年平均を下回ると予想される。

一方、今期後半に太平洋から当海域に来遊する冬季発生系群の来遊量は概ね前年並みと予想されている。そのため、今期後半の漁況は、12月の漁獲量が多かった前年を下回るものの、近年平均並みに回復すると予想される。

### 3. 本州北部日本海（小型いか釣り）

近年、この海域では5月～7月が漁期の中心であり、8月以降に好漁場が形成される状況にない。

#### 【情報と予報の説明】

日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果及び今年5月と6月の当海域の漁獲量は前年及び近年平均を下回り、今期前半の表面と水深50m水温も「やや高め」と予測されている。そのため、近年同様、好漁場が形成される状況にないと予想される。

### 4. 西部日本海（小型いか釣り）

この海域では、5月～6月に沿岸域を北上する群の他、10月以降に沖合から南下する群が漁獲の主対象となる。ただし、近年は水温の高い季節には沿岸域に魚群が来遊しにくく、秋季発生系群の南下群が漁獲対象となる10月～12月は漁獲量が伸びない傾向がある。

#### 【情報と予報の説明】

日本海スルメイカ漁場一斉調査結果では、今年の日本海におけるスルメイカ秋季発生系群の分布量は前年及び近年平均よりも少なかった。そのため、近年同様、本海域では好漁場が形成される状況にないと予想される。

### 5. 沖合域（いか釣り）

沖合域では従来、7月～12月にかけて大和堆付近が主漁場であり、水温の高い8月下旬～9月には北海道沖の武蔵堆付近にも漁場が形成されてきた。しかし、近年は漁場が北偏化するとともに漁期が遅れ、8月～11月は主に北海道周辺海域に漁場が形成され、大和堆付近では11月～12月のみに漁場が形成される年が多くなっている。

#### 【情報及び調査結果】

日本海スルメイカ漁場一斉調査結果では資源量指数が前年及び近年平均を下回っていることから、沖合域の漁況も前年及び近年平均を下回ると予想される。日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果では大和堆付近では分布密度の高い調査点もあったものの、今期前半の水温が概ね「やや高め」と予測されている。そのため、主漁場は近年同様、8月～9月は道北沖、11月～12月は大和堆付近に形成されると予想される。

## Ⅱ 予報に用いた主要な情報及び調査結果

### 1. 日本海スルメイカ漁場一斉調査結果

日本海におけるスルメイカ秋季発生系群の分布状況を、イカ釣りによる試験操業（6月下旬～7月上旬に実施）によって調べた（図1）。

#### 1) 分布状況

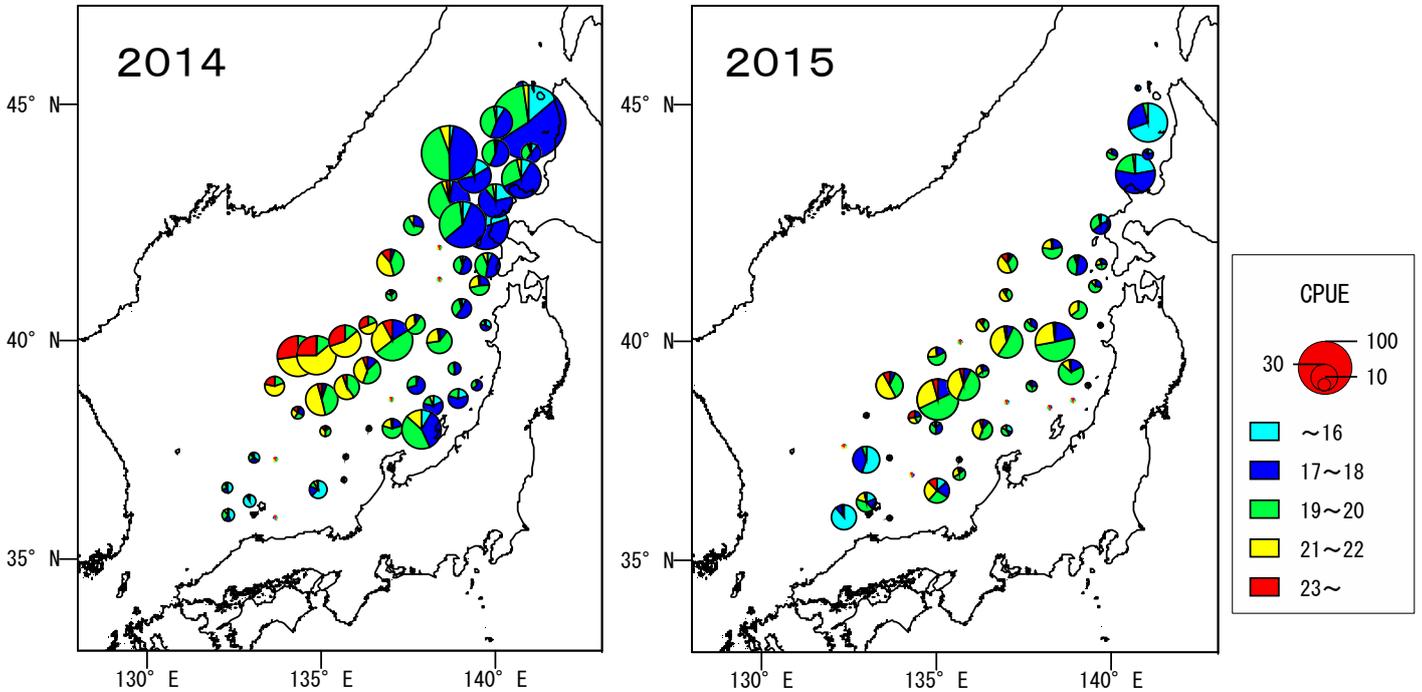


図1 日本海におけるスルメイカの分布状況（2014年と2015年の調査結果）

図中●の面積は各調査点の分布密度の指標となるCPUE（釣機1台1時間あたりの採集尾数）を示し、各色は各外套背長範囲(cm台)の比率を示す。

- (1) 道北・道央海域では、外套背長16cm台以下及び17cm台～18cm台の小型サイズを中心に採集された。分布密度の指標となるCPUE（釣機1台1時間あたりの採集尾数）が50尾前後の分布密度の高い調査点もあった。
- (2) 道南・津軽海域では外套背長17cm台～18cm台及び19cm台～20cm台のサイズを中心に採集された。しかし、この海域にはCPUEが高い調査点はなかった。
- (3) 本州沿岸域では、北部では19cm台～20cm台のサイズが中心、西部で外套背長16cm台以下の小型サイズが中心に採集された。CPUEが20尾前後の調査点が複数あったものの、CPUEが50尾を超す分布密度が高い調査点はなかった。
- (4) 沖合域では、大和堆付近から秋田県沖にかけてCPUEが50尾以上の分布密度が高い調査点があった。採集された個体は外套背長19cm台～20cm台及び21cm～22cm台が中心で、他の海域よりも大型であった。

### 2) 資源量指数

日本海漁場一斉調査において、イカ釣りによる試験操業を行った全調査点の平均CPUE（釣り機1台1時間あたりの採集尾数）をスルメイカ秋季発生系群の資源量指数として、日本海への来遊量の目安に用いた。資源量指数は、1970年代後半は15尾前後であったものの、1980年代には低下し、1986年は2.76尾となった（図2）。1987年以降は増加傾向に転じ、2000年前後には約20尾となった。しかし、2003年以降はやや減少し、2014年（28.80尾）を除き、概ね15尾前後で推移している。2015年の資源量指数は、14.56尾であり、前年（28.80）の約半分、近年平均（18.29）の80%であった。

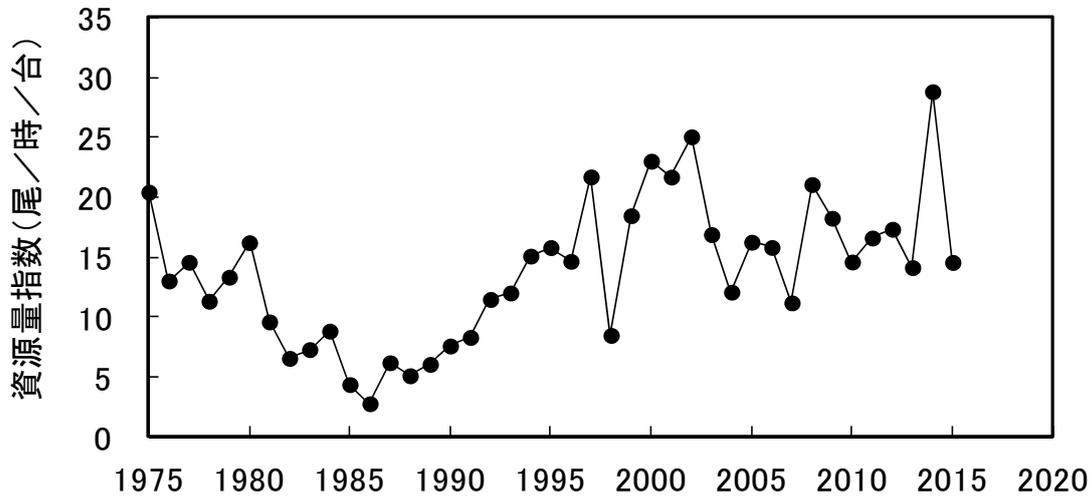


図2 日本海におけるスルメイカ（秋季発生系群）の資源量指数の変化

### 3) 魚体の大きさ

資源量指数で重み付けした外套背長組成を図3に示す。2015年は20cm台にモードがある組成であった。外套背長20cm以下のサイズは前年及び近年平均よりも少なかったが、外套背長20cm以上のサイズは前年よりは少ないものの、概ね近年平均と同じであった。

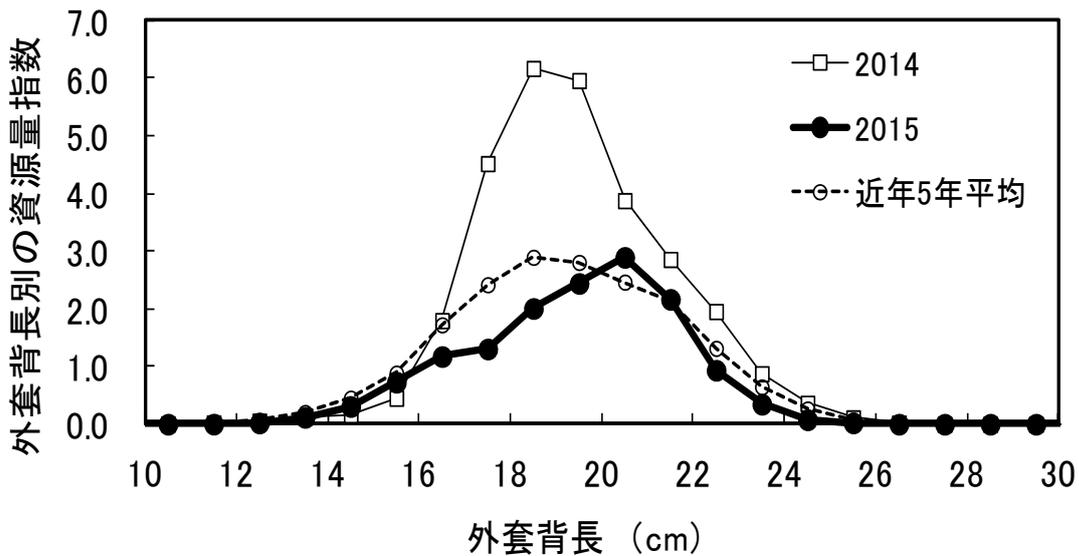


図3 日本海スルメイカ漁場一斉調査結果によるCPUE重み付け平均外套背長組成  
各外套背長階級の値は釣り機1台1時間あたりの平均採集尾数を示す。

## 2. 2015年6月までの日本海各海域の漁況の経過

2015年6月までの各海域の月別漁獲量を図4に示す。4月までは概ね前年及び近年平均並みで推移していたものの、5月以降の漁獲量は伸び悩み、6月の道北・道央を除き、全域で漁獲量が近年平均を下回った。

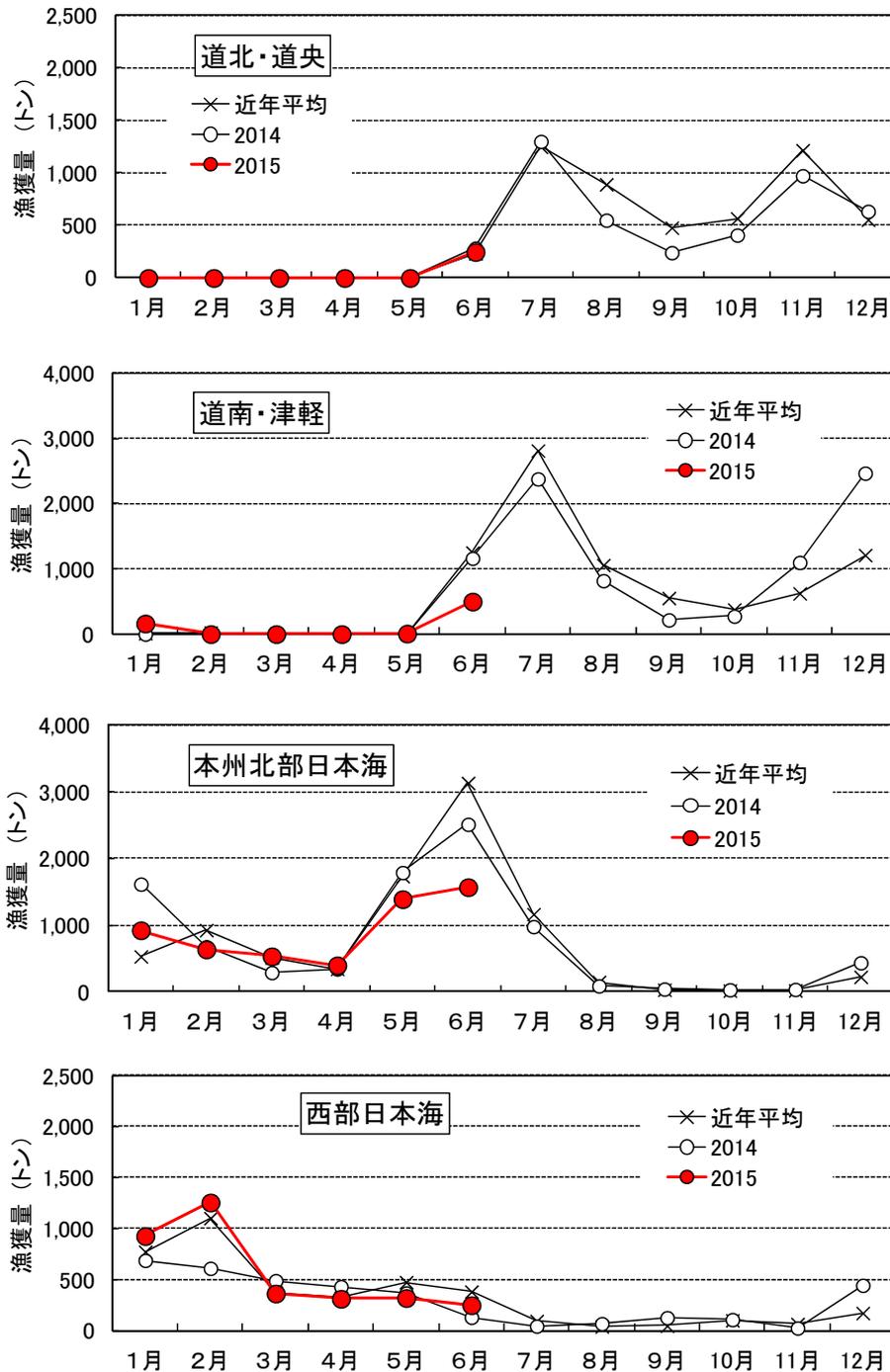


図4 日本海各海域の生鮮スルメイカの漁獲量 (トン)

各道府県試験研究機関及び漁業情報サービスセンターの資料より作成 (一部未集計)。

## 3. 太平洋側 (冬季発生系群) の資源状況

太平洋側には主にスルメイカ冬季発生系群が分布する。これらは10月以降、宗谷海峡及び津軽海峡を經由して日本海に来遊する。そのため、太平洋側の冬季発生系群の分布状況は10月以降の日本海の漁況に深く関係する。

平成27年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報によると、8月～9月の太平洋側への来遊状況は、道東太平洋海域で前年を下回ると予想されている他は、前年並みと予想されている。

## 参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場 函館水産試験場	京都府農林水産技術センター 海洋センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	長崎県総合水産試験場
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター  (取りまとめ機関)
福井県水産試験場	国立研究開発法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所